

## 花き生花用支持台(フェノール発泡体)の切り花日持ちへの影響

生花をアレンジメントする際に用いる花き生花用支持台(フェノール発泡体)の日持ち性能について検討した結果、その種類により日持ち日数に違いがみられた。また、フェノール発泡体を用いた場合、単に水に生けるだけに比べて日持ちが延びることが判明した。

### 内 容

生花をディスプレイする際には、一般的に緑色に着色されたフェノール発泡体に挿す場面が多い(写真)。その日持ちを確認するため、標準品(以後フェノール発泡体Aとする)と廉価品(B)のフェノール発泡体を用いて日持ち性能を評価した。

#### 実験1(カーネーション)

供試材料として「エクセリア」を用い、フェノール発泡体は、それぞれ、直径7.5cm×高さ8cmの円筒状に加工し、日持ち試験前日から花瓶中の水道水につけ、試験開始直前に水を入れ替えた。フェノール発泡体が浸る程度の水を入れ、試験を行った。日持ち試験室内は室温25℃、湿度60%、12時間日長に調整。生け水には水道水を使用した。花瓶は直径8.2cm×高さ20cmのガラス瓶を滅菌して使用した。日持ち試験開始日の午前中にカーネーションを収穫し、午後まで静置。茎長51cm、上位3節まで葉を残し、他の葉は除いた。茎の末端1cmを斜めにカットし、あらかじめ印しておいた末端から5cmの位置までフェノール発泡体に挿し、その後の切り花日持ちを調査した(図1)。

その結果、フェノール発泡体Aは、カーネーションの日持ち日数がB、水のみの方に比べて長くなること分かった(図2)。

#### 実験2(バラ)

淡路市仮屋のガラス温室にて栽培されたバラ「ローテローゼ」を供試し、実験1の処理方法に準じて日持ち試験を実施した。供試材料は日持ち試験開始前日に収穫後、日持ち試験開始日の午後まで水を張ったバケツ内で静置し、試験に供した。

その結果、フェノール発泡体Aは、バラの日持ち日数でもBに比べて2日程度長くなること分かった(図2)。

### 普及上の注意事項

今後需要が増えると考えられる直売所等でのアレンジメントフラワー販売における支持台としてフェノール発泡体を用いる場合は、使用場面に応じ製品毎の日持ち性を確認して利用することが必要である。

東浦 優(淡路 農業部)

(問い合わせ先 電話:0799-42-4880)



写真 フェノール発泡体を用いた生花のアレンジメント



図1 カーネーションの日持ち試験の様子

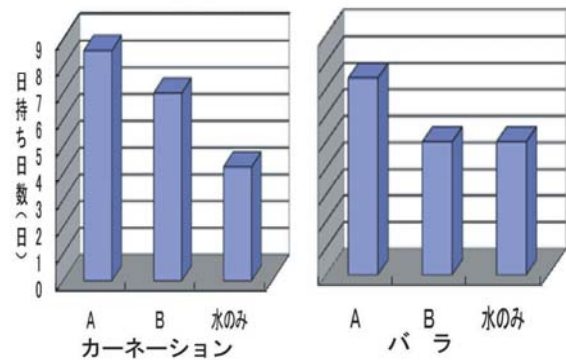


図2 フェノール発泡体におけるカーネーションとバラの日持ち日数